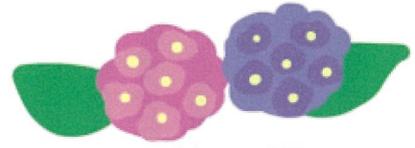


紫竹山コミ協 会報 むらさき



第15号

防災特集号

発行日 令和3年3月31日

発行 紫竹山校区

コミュニティ協議会

会長あいさつ

紫竹山校区コミュニティ協議会

会長 野澤 正信



新年明けましておめでとうございます。日頃地域の皆様には大変お世話になります。

話になりありがとうございます。令和三年の始まりも寒波に見舞われ、久しぶりの大雪で除雪に御苦労されたのでは、と思っております。又新型コロナウイルス感染症は収束せず、今年に入って更に勢いを増し、日本全国に蔓延し、11都府県で二度目の緊急事態宣言が、発せられる異常事態が続いています。紫竹山校区コミュニティ協議会もご多分に漏れず、多くの会議や活動が中止になり、総会すらも書面で議決を求める状態でした。

人との接触を極力減らし三密を避け、マスクの着用、手洗い消毒を行う行為は、今迄の行動様式を転換した、新状態の生活様式に他なりません。令和二年度の活動も残すところ数か月ですが、

来年度を目標に安心安全な地域の為、自然災害から身を守り避難できる体制を構築したいと思っております。それ故私たちは災害を、我が身に置き換へて教訓とし学んでいかねばなりません。

毎年紫竹山コミ協では、皆さんに防災意識を高めてもらう為に、津波災害、大規模火災災害、都市直下型地震災害、原子力災害と、自分達の目で災害の恐ろしさを、肌で感じてまいりました。昨年は皆さんの記憶に新しい、長野県千曲川の洪水による堤防決壊箇所と災害被災地を視察し、その自然災害の惨状を見聞させて頂きました。

信濃川は上流で千曲川と繋がりが災害発生時、まさか半日後に濁流が信濃川を下り、中越地方に真昼の避難勧告が発令されるくらい危険な状態であった、と聞き耳を疑いました。その昔、横田切れや曾川切れと言う洪水被害があった、と云う歴史的背景を知るため、大津分水や信濃川分水路の役割を視察し改めて中越、下越の越後平野や新潟市は二つの分水によって、洪水から守られていること事を知り、改めて他人事でなく、自分の身に置き換えて、

いつ起こるとも知れない災害から身を守らねばなりません、災害は忘れた頃にやってきます。

地域の安心安全の為に、防災組織の立上げに全力で取り組んでいきたいと思っております。今後とも地域の皆様のご協力宜しくお願い致します。



長沼地区 研修会

防災特集号

今号は、防災特集号となります。

防災研修視察に参加して

視察研修 副団長 阿部 篤義

近年防災に関して地域の皆さんが心配されている災害は地震、台風下における豪雨による水害だと思えます。特に私達の生活している紫竹山小学校区は、海拔ゼロメートル地帯にあり水害による被害が大きく考えられます。このたび令和元年東日本台風により長野県長沼地区の千曲川左岸堤防が決壊し、広範囲に渡り浸水被害を受けました。この氾濫の様子を視察するべく現地を訪れました。

現地担当者の説明によれば、今までに体験したことのない洪水で、長沼地区の住宅被害870件と、市全体の半分以上を占めるほどの甚大な被害でした。

この千曲川の氾濫により、本流信濃川の下流小千谷、長岡地区の流域も相当な被害を受けました。しかし本県大河津分水の存在で、この洪水の一部を放流する事により、三条、新潟方面で



大河津分水資料館 研修

の氾濫を回避できた事を、信濃川大河津分水資料館への視察研修により館員の説明を受け、いかにこの大河津分水の重大さを痛感したいです。

今後これ以上の洪水が予測されることを考慮し、平成30年大河津分水路改修事業起工式が行われ、本格的な工事を開始されています。また、当市の関屋分水路も大河津分水の補佐をすべく重要な役割を担っています。

平成10年8月4日集中豪雨が新潟市を襲い、観測史上最大の1時間雨量が97ミリに、一日降雨量265ミリを記録し、通船川や鳥屋野湯流域に大きな被害をもたらしました。むらさき通も水深70センチ位まで冠水したように記憶しています。自然災害は突然に襲ってきます。皆さん落ち着いて行動する様に心してください。

10/13~14

防災視察研修会①

● 駅南ハイツ自治会

大沢 耕司(防災士)

10月13日8時に駅南コミセンを総勢18名バスで出発しました。北陸自動車道に乗り三条インターで降り、元三条競馬場跡地にある三条市水防学習館に到着。この施設は、三条市で起こった平成17年の7・13水害、平成23年7・29水害の記録を残している建物です。そして、現在は国土交通省の中越地区の防災センターとしての役割を果たすた

めに、排水ポンプ車1台、照明車(2キロワット×6灯2柱式)1台、堤防草刈り機3台、堤防補強工事用資材を備えています。村上館長様から館内の説明を詳しくお伺いいたしました。2階展示室では、7・13水害は、中越地区を中心とした地域を大規模な集中豪雨が襲い、五十嵐川や刈谷田川など6河川で11か所が破堤し市街地が浸水するとともに、各地でがけ崩れなどが多数発生しました。新潟県内で多くの人的、物的被害が生じました。特に三条市での被害は甚大となり、死者9名、重傷者1名、被害棟数10,935棟、被害世帯7,511世帯に及びました。

7・29水害は、新潟県と福島県津を中心とした豪雨が続き、三条市の笠堀観測所では、降り始めから7月30日13時までの累計雨量が1,006mmを観測する記録的な大雨となりました。この豪雨により、三条市においては、五十嵐川など3河川3か所が破堤したほか、土砂災害による住家や道路の被害も多数発生し、死者1名、被害棟数4,228棟、被害世帯2,218世帯

に及びました。

館内に設置されているベンチの中に防災グッズが保管されていました。スペース利用の参考になると思います。自動車の水没時、ドア明けの設備を実際に経験して改めて水の重さを感じました。

平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害のあり方について(報告)

①自然災害は、決して他人事ではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。

②気象現象は今後更に激甚化し、いつでもどこで災害が発生してもおかしくありません。

③行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っている時、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。

④行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。⑤避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は自分で守ってください。



三条市水防学習館 研修

⑥まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。

⑦命を失わないために、災害に関心を持ってください。あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないで

すか? 危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか?

⑧「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

以上のもは、平成30年7月豪雨を今後活かすべく中央防災会議 防災対策実行会議が取りまとめた報告を記して、防災研修視察旅行の報告とさせていただきます。

● 米山第三自治会

山賀 仙一

近年地球温暖化等による気候変動によつて、雨の降り方が大きく変わっています。二度にわたつて水害に襲われている三条市にある三条市水防学習館を視察する機会を得て、10月13日総勢18名の参加で行ってきました。

(7・13、7・29水害) 館内の施設を照会 1階 ①地域情報発信センター、②テキストレイン、③レスキュー

ベンチ

2階 ①三条市航空写真、②水害の記録 消防救助作戦地区、③気づきマップ、逃げどきマップ、④水深リマスケール、⑤持ち出し品、⑥車のドア水圧体験、⑦水害の街、⑧水害降雨再現シアター、と8施設がありました。

車のドア水圧、音と映像による雨量の再現、7・13、7・29の水害の映像を診て水害の恐ろしさを体験しました。三条市水防学習館は、三条市を襲つた二度の水害を教訓とし、水害の疑似体験を通じて防災意識の向上を図る施設でした。

自然災害はいつ起るかもしれません



千曲川の水害状況

ん。日常防災の準備をしておく必要があると思います。

- ・自分の命は自分で守る（自助）
 - ・家族間でいざという時の情報確認
 - ・隣り近所の助け合い（共助）
- 三条市水防学習館を視察して水害の怖さを改めて考えさせられました。有意義な研修でした。

●米山第四自治会

青山 齊

今年度の研修会は、三条市と長野市の長沼地区を襲った台風による堤防決壊の状況を視察する研修であった。

三条市では、平成16年と23年の2度福島県会津・新潟県に停滞する梅雨前線による大雨により、五十嵐川が氾濫し多大な被害にあっています。地震などの災害よりも予測がつきやすいので、的確な情報を伝達できれば人命は比較的守りやすい。水による災害でありながら、飲料水などの生活用水の確保が最も大切なことである。その後は、再びの災害に備え、浸水した個所の水を汲みだすポンプ車と夜間でも作業が



三条市水防学習館 研修

できるように照明車を準備して万全を期している。

長野県長沼地区では、令和元年（昨年）10月の台風により千曲川の堤防が決壊して起こった災害である。川幅約1000m、堤防の高さ5.8m、堤防の幅が7mあるところが約1.5kmにわたり越水して堤防を侵食し、約70mにわたり決壊した。その結果長沼地区が広範囲に浸水被害をうけたわけです。

私が復興した決壊現場を目にした限りでは、越水し堤防が決壊するなどということは考えられないことでしたが、最近の大雨は線状降水帯などで局地的に大量な雨が降り私たちの予測をはるかにこえた自然の猛威が発生しております。

長沼地区では、堤防が決壊する約10時間前から対策本部を設置し、弱者・高齢者等の避難を開始した。結果的には、人的には、人的被害として2名の方がなくなり、住宅は873件が被害を受けた。対策本部では、浸水した為にそれぞれの自宅の電話が使えず、また避難してくれたのか？ どこに避難したのか？ 住民の安否の確認がもつとも大変だったとのこと。今後は、防災マップ・防災訓練の見直し、避難勧告の方法の改善、住民安否の確認方法等を検討して行く。

何はともあれ、私たちができることは災害が発生してからの確に正しい情報を得て「自分の力で自分を助ける」を第一に考えて行動して行くことです。

●鏡西第二自治会

光村 眺治

去る10月13～14日、紫竹山校区コミュニティでは三条市水防学習館と、長野市長沼地区災害復旧視察研修に行つて来ましたので感想を報告します。

台風19号による大雨で長野市の千曲川堤防が70mにわたり決壊した長沼地区を視察しました。住民自治協議会の小田様の案内によると、この堤防は「桜つつみ」として親しまれ100年に一度の大雨に対応する「完全堤防」として整備され、さらに幅10m以上の土を盛り足して強化されたので住民は安心して暮らしていられたようです。原因は溢れた川の水が堤防を削る「越水」現象により決壊したようです。

もし千曲川が河道掘削（川底を掘り下げる工法）を強化するには下流から下流と流下能力（川が流すことのできる洪水の規模）が不均衡になり、新潟地方は浸水するそうです。関連しますので10月14日中央区防災講習会の一部を引用します。「1. 千曲川と魚野川の洪水が時間差で流下したため信濃



長沼地区 視察

川の決壊はまぬがれた。2. 台風19号により大河津分水の水位は観測史上最高を記録、越水して決壊寸前だった。もし大河津分水が決壊すれば新潟市の中心部まで浸水、長期間にわたって水が引かなくなるので、今大河津分水は改修中です」以上。

りんご農家の皆さんは、さら地に倉庫を建て自分たちは仮設住宅に住み通い農家として生計を立てているそうで

す。破損した建物は国が処分してくれ、全壊見舞金として150万円、家を建てる支援金100万円、市からの緊急支援金57万円、あとは自己資金で家を建てるしかないそうです。

長沼地区では2名の方がお亡くなりになり、住宅被害は873件（全壊560件）、自宅や畑を手放さざるを得ない住民（75世帯）も多く、地域コミュニティを再生するため地区防災警戒を見直し、次のことを実施しました。

1. 要支援者への避難勧告等の連絡方法の改善（固定電話から携帯電話へなど）。
 2. 住民の安否確認方法の改善。
 3. マイ・タイムライン（災害に備え前もって自分のとるべき行動を整理計画）で避難計画を構築する。
- 今回の研修で学んだことは、災害は年々頻発し激甚化しますので自助（自分の命は自分で守る）共助（隣、近所の助け合い）を中心とした日常の活動が大切と感じました。



大河津分水資料館 研修

●鏡西第二自治会

小林 隆夫（防災士）

ちょうど一年前の10月13日、ここ千曲川・長沼地区で台風19号（令和元年東日本台風）の影響で線状降水帯が発生し、今までに経験したことがない大雨で千曲川の堤防が耐え切れず、長沼地区で破堤し大規模な被害が発生しました。

一年目のメモリアルな日のため報道取材があるご多忙の中、長野市長沼地区

区住民自治協議会・事務局長小田信幸氏から説明があり、熱心に耳を傾けることが出来ました。

私も一年前、台風19号に伴う大雨による警報配備で職場において、13日午前、国土交通省北陸地方整備局からエリアメールが届き、大河津分水付近で水位が上昇し、氾濫危険水位に達して、破堤寸前であることがわかりました。すぐに燕市は、避難勧告を発令しますが、私どもは到達時間の関係で発せずにいました。私のところは揺れ動いていました。



千曲川の破堤場所

紫竹山校区コミュニティ協議会

長沼地区から少し下流域の川幅の狭く
なっている狭窄部分の改良工事は、現
在、新潟県側で工事が行われている大
河津分水の拡幅工事が終わらないう
ち、出来ないとい知らされているとのこ
とです。なぜかと言うと、上流部の狭
窄部を広げることにより、流量が多く
なり新潟県側で信濃川となる下流域
は、大河津分水をはじめ、中小河川の
被害が甚大なるというのです。一刻も
早い完成を願いたいものです。

長沼地区で残念ながら、二名の方が
亡くなられたとのことですが、避難行
動要支援者をいち早く避難所に収容
し、人命救助最優先で活動した行動は
見事だと思いました。私ども、紫竹山
コミュニティ協議会も高齢者の比率が
高くなっており、災害時の避難行動要
支援者をどう行動して助けるかが最大
重要事項です。災害が大きくなるほど
「公助」の支援は受けづらく、各自治
会長をはじめ、組長、班長が情報を共
有して「共助」の活動が欠かせません
ので、「自助」をしっかり確保して、協
力支援体制で活動をしていきましょう。

紫竹山校区コミュニティ協議会



にとこみえ〜る館

当施設の「にとこコンシェルジュ」の
女性から笑顔で、ていねいに説明を受
けるうちに、「大河津分水路改修事業」
が、範囲3.3km、川幅を100m拡
幅し、一千二百億円をかけて、掘る土
の量が一千万m³(25mプール三万杯分)
で、18年間(あと12年)の大事業であ
ることが、びつくりのうちにわかりま
した。

「パネル」、「タブレット」と屋外で



にとこみえ〜る館屋上

の説明でしたが、すごさに「寒さ」と
「腰痛」も和らいでいたのです。

日頃の業務をしながらの中でも、「自
然保護」と「環境保全」に配慮しての
工事は、通常の何倍いや何十倍もたい
へんだと察して、改めて敬服しました。
日頃から、目にし聞いて知っているこ
とも中に入って、見て聞かないとわか
らない事もししみじみ知りました。

私は、市外の出身者ですが、「市の
検定二級」を持っていながら恥しい限

12/11
防災視察研修会②

紫竹山自治会
関屋分水を視察して
高橋 正太郎



関屋分水資料館 研修

12月11日信濃川最下流にある関屋分
水を視察して来ました。
土地の低い新潟市を水害から守る為

に昭和39年に着手し、昭和47年に通水
しました。長さは18km、川幅は240
290mあり分水路工事では7年かけ
て掘りあげた。掘削土は、現在の新潟
バイパスの盛土に利用された事を聞い
てびっくりしました。この分水路を通
す一帯は家屋693戸あったが、多く
は近く関屋競馬跡地に移り住み、今
の「信濃町」「文京町」と新しい町が
生まれたと聞きました。

関屋分水の役割は信濃川の氾濫から
守る、信濃川の水量を調整したり、塩
分の侵入を防いだり、西港の土砂の堆



関屋分水ゲート

積を減らす、新潟海岸の浸食を防ぐと
いう事でした。昭和40年に信濃川が一
級河川に指定され、国の事業になりま
した。近年は50年に一度とか百年に一
度とか、自然災害が発生していますが、
未然に被害を防いでくれる関屋分水
は、新潟市の為に安心して暮らせる大
事な施設です。

多くの先人の知恵と労苦に感謝して
おります。

米山第四自治会
新第二床工事を視察して
田中 和夫

「にとこみえ〜る館」と聞いた時に
は、正直いつて何なのかと思いつつ、
興味を持って拝見、拝聴しました。
恥かしながら、まず「何の施設です
か」と失礼してお聞きしたところです。
すると、「にとこ」とは「第二床固」
の略称であり、「大河津分水路改修事
業の発信基地」であることがわかりま
した。

ここまでの視察箇所にて「床固」に
ついてはわかりかけていたのですが、

米山第四自治会
大河津分水を視察して
大瀧 良男

大河津分水を視察して、感じられた
事は、分水の役割は、日頃から知って
いるつもりでしたが、改めて知ること
が、できました。

分水の視察で、展示された「写真」
「工具」、「映画」、「展示物」「お話し」
など見聞して、普段から備えの重要さ
をつくづく痛感しました。ありがとう
ございました。



大河津分水 拡幅工事



大河津分水 拡幅工事現場

紫竹山校区コミュニティ協議会

令和2年度 防災研修視察の報告
紫竹山コミュニティ協議会

総務 高野 富男

今年度は、信濃川・千曲川水系の洪水災害をテーマに防災研修視察を実施しました。

・令和2年10月に

(1)令和元年台風19号(10月13日)による、千曲川の決壊地「長野市長沼地区の災害復旧状況」を視察し、長沼地区住民自治協議会の小田事務局長から災害1周年の多忙中の説明を受ける
(2)三条市水防学習館では、村上氏から防災ステーションの体制と交流広場の案内を受ける



三条市水防学習館

・令和2年12月に

(3)関屋分水資料館では、木伏課長補佐、白井所長から関屋分水路事業概要の説明を受ける

(4)大河津分水資料館では、斉藤さんから江戸時代から分水事業が進められ、私財を投じた先人など歴史から学び、今の豊かな越後平野となり、新潟市の発展となる説明を受ける

(5)にとこ見える館では、西海土さんから大河津分水路の百メートル水路拡幅工事の状況説明を受ける



関屋分水資料館

末筆ではありますが、各視察先の皆様には、コミ協の研修にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

緊急時の避難場所を
決めておきましょう

指定されている避難場所には災害時に、食料・飲料水・毛布などが届けられません。緊急時にはどこへ避難するかを家族で話し合っておきましょう。



指定避難場所は次の三カ所のみです。

- 紫竹山小学校
 - 駅南コミュニティセンター
 - 北越高等学校
 - テクノスクール※
- (※津波発生時一時避難場所)

編集後記

今年度の防災研修は、長野県長野市を中心とした千曲川水系の被災地を訪れ、その後下流域の大河津分水、関屋分水を視察するものでした。私は前半の長野県へは、参加することができませんでした。訪れ、説明を受けた時、今年度の防災研修が、(結果としてもしくは最初から考えていたら)本当に素晴らしい、非常によく考えられた研修視察だったと敬服いたしました。

地球温暖化による気象災害は、増々多くなっていくものと思います。地域の安心安全の為、私たちも研究し、何かを実践して行かないとなりません。そんな地域に役立つ「むらさき」であってほしいと、一層努力して行きたいと思っております。

中村昌雄
編集委員一同